

相手や目的を意識したリーフレットの作成

－ “アップとルーズで伝える” の実践を通じて－

横浜市立北方小学校 教諭 鳥越 和貴

e-mail: tori5ekazu@gmail.com

キーワード：相手意識・目的意識、協同学習、リーフレット、電子黒板

1. はじめに

相手意識をもった情報発信では、情報を発信する際に考える主語が、自分にとって一なものではなく、相手にとって一なものになり、伝える内容や、伝える方法なども変わってくる。また、目的意識を持った活動をすることで、どのようなものをどのように見せれば良いかを考えることになる。

この単元では、相手意識、目的意識を中心に据えながら、1～2枚の写真と文章を組み合わせたリーフレット作りに取り組んだ。PCなどのICT機器を使いながら国語科の活動に取り組みつつ、情報について学ぶ視点、情報の受け手の反応から自分たちの活動を振り返ることを学習の中に織り込んでいった。

2 単元の概要

2. 1 単元に入る前

本単元に入る前、児童らは「新聞記者になろう」という単元の学習で自分たちのクラスの保護者に向けて、学校での出来事などを発信する新聞を作成してきた。この学習で子どもたちは情報の受け手（保護者）を意識した情報発信を経験してきている。

そこで、本単元では「ふれあいフェスティバル」という参観日に多数の保護者が来校する機会を学習に関連させ、学級以外の保護者も対象として、学校内を紹介するリーフレットを作成する学習を設定した。

2. 2 単元構想

単元の構想は以下の通りである。1～6時は「アップとルーズで伝える」で説明文の読み取りを行いながらアップとルーズがどのようなものかつかんでいった。7～17時は実際にリーフレット作りに取り組んだ。

1	教材とリード文を読み、学習のめあてをもつ
2	①②段落を読み取り③段落との役割をとらえる
3	④⑤段落を読み取り⑥段落との関係をとらえる
4	⑦⑧段落を読み取り筆者の主張をとらえる
5	各段落に小見出しをつけ、段落構成図にまとめる
6	筆者の伝えたいことを考える
7	「4年3組から発信します」を読み、活動の見通しを立てる
8	取材対象や取材内容を決める
9	取材の準備をし、取材を行う
10	取材結果をもとに原稿の下書きを行う
11	下書きの確認をし、追加の取材を行う
12	原稿の推敲をグループで行う
13	パソコンで原稿の入力を行う

14	原稿の入力と写真の選定を行う
15	写真にキャプションをつける
16	見出しを付け、割り付けなどの構成を行う
17	みんなで読み合い、写真や文章の良さを伝え合う

3. 学習の工夫

学習を進めるにあたり、以下のような工夫を行った。

3. 1 学習形態

作成は新聞作成と同様、3～4人で1グループの協同学習をベースとした。グループに1台のコンピュータを配布し、グループで1つのリーフレットを作成するようにした。作業時間が一緒になることを防ぐために、PCで入力、入力のアドバイス、下書きのチェックなどをグループ内で分担して行うようにした。

3. 2 テンプレートの準備

PowerPoint を使ったテンプレートを作成した。テンプレートでは1人当たり縦1枚か横2枚の写真をいれることができるようにし、これを元にして下書きを作成するためのワークシートを作成した。このテンプレートから下書き用シートの行数などを決定した。

3. 3 映像とテキストとの関連

キャプションをつける学習では1枚の写真を提示し、その写真を説明する文章を変える活動を行った。これにより、情報の受け手がどこを見るか、どのような写真に見えてくるのかということを押さえた。

3. 4 電子黒板の活用

児童らにとって日常の中でなんとなく目にしているリーフレットが、どのような文章の述べ方や見せ方の工夫をしているのか気づくために、本物のリーフレットを読み取る活動を行った。このような小さなものを読み取る活動では電子黒板に拡大表示しながら気づきを書き込んでいく活動が非常に有効である。



写真1 電子黒板を使った読み取り

4. リーフレットの作成

リーフレットの作成では以下のような活動を行った。

4. 1 取材活動（8～9時）

取材する際には、グループ内でインタビューをする役、メモをとる役、撮影を行う役に別れて取材を行わせた。この役は順番に交代して行い、全員が全ての役を担当するようにした。

4. 2 下書きの作成（10～14時）

取材結果をノートにまとめ、自分が何を中心に伝えたいのかを考えるのと同時に、相手にとって興味をもつ情報や無いと困る情報を考えさせた。

下書きの紙はA4一枚に印刷したものだが、実際に印刷するリーフレットでは一人当たりのスペースはA4の1/4ほどになる。こうすると、新聞作成の時とは違い、短い文章に言いたいことをぎゅっとまとめた文を書く必要が出てくる。そこで、本文中にもある「このように」という表現を文の最後に入れるよう指導し、まとめの文まで一貫した内容になっているかグループで確認しながら下書きを作成するようにした。

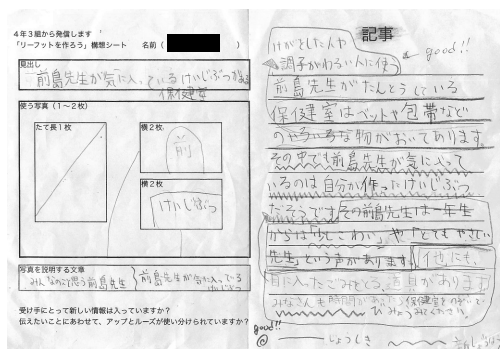


写真2 児童が作成した下書きの原稿

4. 3 PCでの入力（13～16時）

児童が作成した原稿はグループに1台のPCを使って入力を行い、原稿の入力をする児童、入力の手伝いをする児童、推敲をする児童にわかれて行った。

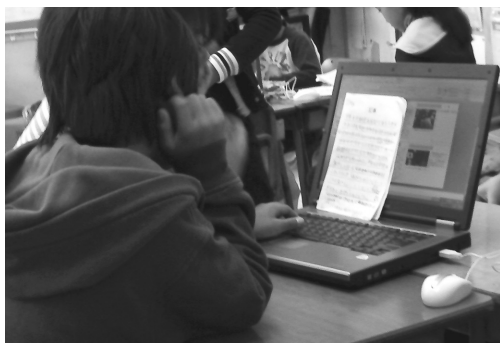


写真3 PCでの入力の様子

4. 4 写真の取り込み、キャプション付け

児童らは、撮影した画像の中から伝えたい内容や目的に合った写真を、下書き作成段階で選んだ。ここでは、3. 3でのキャプションの学習を生かして、PC

に取り込んだ写真にキャプションをつけた。また、合わせてタイトルも入力して、簡単なレイアウト編集を行った。

4. 5 受け手の声から学ぶ（17時）

作成したリーフレットを印刷し、多数の保護者が参観するふれあいフェスティバルの場で持ち帰ることができるようにした。読者の感想は学級の保護者から寄せられたもののみであったが、学習のまとめでは自分たちの作品を読み返し文章の良さの評価を行うと共に、読者の感想を読み、情報の受け手が自分たちの作品をどのように感じたのかを話し合わせた。



写真4 保護者からの感想をみんなで読む

たくさんの工夫がされている理科室

理科室は、2階にあります。科学クラブや、理科の学習に使われます。ガラスのケースの中には、人体模型などがあります。実験道具の数は、数えきれないくらいです。その中で一番大きい道具は、なんと、ガイコツで、高さが、1mくらいです。理科は、上下に動かすことができ、実験の方法をたくさん書くことができます。このように、理科室には、実験のための工夫があります。



ガラスの中の人骨模型

たくさんの楽器が揃っている音楽室

音楽室は、いろんな学年が音楽の授業をする所です。音楽室にはたくさんの楽器があります。その中でも一番大きい楽器はシンセサイザーという太鼓の仲間で、一番小さな楽器はフィンガーシンバルというたたきつけて音を出す楽器です。さらに音楽室の壁や天井に穴が開いていていい音が響いてくるようになっていて、このように音楽室は楽しく音楽の勉強ができるようになっています。



たくさんの楽器

北方小2階

たくさんのパソコンがあるしじょうかく室

しじょうかく室は、鳥越先生が管理しています。しじょうかく室の特長はパソコンの台数が多いことです。ときどきしじょうかく室のパソコンを教室に持ってくるときがあります。しじょうかく室のパソコンは、TOSHIBAとNECです。このように、しじょうかく室には、たくさんパソコンが揃っており、他の教室でも使えるようになっています。



教室でしじょうかく室のパソコンを使う

たくさんの笑顔が見える一年生の教室

一年生の教室は、2階にあります。そして、一年生の教室は、とても明るくて元気な子どもたちがいっぱいいます。また、六年生が中心となって、一年生の教室に来てそうじや、給食の準備を手つたってくれます。このように一年生は、六年生や担任の先生と生活しています。



一年生の教室の様子

写真5 完成したリーフレット

5. まとめ

「新聞記者になろう」で学習したことからのつながりもあり、「保護者にとってこれはどうでもいい情報かもしれない」「こっちの写真の方が伝わるだろう」と、児童らにとって、相手や目的を意識した発言が見られ、伝え方の工夫が深まっていた。特に、今回のような短い文章の中に伝えたいことをしぼって書く場合には、相手や目的に留意することで、伝えたいことの中心をはっきりさせることができた。

また、「新聞記者になろう」の時と違い、PCをグループに1台として、1枚のリーフレットにまとめるようにしたが、全員で同時に作業ができない反面、入力作業を協働で行うために原稿の推敲やアドバイスが作業中に生じてくるなど、1台であることの功罪も見られた。